

10 当科での虫垂炎に対する単孔式経膈腹腔鏡補助下虫垂切除術の経験

登内 晶子・大谷 哲也・眞部 祥一
高橋 遼・八木 寛・小林 和明
岩谷 昭・横山 直行・山崎 俊幸
桑原 史郎・片柳 憲雄

新潟市民病院消化器外科

【目的】虫垂炎に対する単孔式経膈腹腔鏡補助下虫垂切除（transumbilical laparoscopic - assisted appendectomy (TULAA)）の手術適応を明らかにすることを目的とし、治療成績を検討した。

【方法・結果】2012年1月から2013年3月に施行した腹腔鏡下虫垂切除術66例のうちTULAAは23例に予定された。発症から手術まで平均1.6日であり、9例に保存治療歴を認めた。術前CTで、糞石形成12例、膿瘍形成4例、回盲部周囲液体貯留を15例に認めた。TULAA完遂例は23例中21例(91%)であった。残りの2例の内訳は、脆弱化した虫垂が牽引により損傷した1例、後腹膜との高度癒着例1例で、いずれも体内で自動縫合器を用いて根部処理を行った。膈部引き出しのため後腹膜からの授動を4例に要した。術後腹腔内膿瘍を1例に認め再手術を要した。術後平均在院日数は4.6日であった。

【結語】TULAAは発症早期で回盲部の可動性が良好であれば安全に施行可能である。

11 急性虫垂炎に対する単孔式腹腔鏡手術—治療成績とスタッフの評価—

桑原 明史・丸山 智宏・佐藤 大輔
田邊 匡・武者 信行・坪野 俊広
酒井 靖夫

済生会新潟第二病院外科

【目的】急性虫垂炎に対する単孔式腹腔鏡手術(SILS)の治療成績とスタッフの評価に関して当院の現状を報告する。

【方法】平成23-24年に急性虫垂炎で手術を施行した109症例中、単孔式腹腔鏡手術41症例を

対象とし、手術成績を検討。また、手術に関連するスタッフにアンケート調査を施行した。

【結果】SILSは開腹手術に比べ手術時間は延長するが、術中偶発症は認めなかった。スタッフ評価では外科医師間で手術法選択に差がみられるが麻酔科医師や手術室看護師の現状の受け入れ状態はよいことがわかった。ただし、看護師からSILSは準備・片づけに時間を要する点と使用器具不足の指摘があった。患者視点からの手術希望では職種間の差はなく、スタッフ半数以上はSILSを希望した。

【結語】外科医師間でも術式選択の適応の差があり、緊急手術として改善の余地はまだあるが、SILSの有益性はスタッフに認められていると思われる。

12 急性虫垂炎に対して回盲部切除術を施行した11例の検討

白井 賢司・河内 保之・田島 陽介
北見 智恵・川原聖佳子・牧野 成人
西村 淳・新国 恵也

厚生連長岡中央総合病院外科

当院では2003年1月から2012年12月までの10年間において、498例の急性虫垂炎患者に対して手術を施行した。そのうち11例に対して回盲部切除術が施行されており、今回これらの症例について検討した。

平均手術時間は116分、術後平均在院日数は12日であった。術前に抗生剤治療を行っていたものは4例、虫垂穿孔を認めたものは7例、膿瘍形成を伴ったものは6例、悪性膿瘍は1例であった。また、虫垂切除後遺残虫垂による虫垂炎から膿瘍を形成したものを1例に認めた。

これらの症例について、若干の文献学的な考察をふまえて報告する。